

講義名	中国語中級B			授業形態	
担当教員	森 宏子	開講期・曜日・時限	後期 木曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	2年生

主題と概要

すでに学んだ中国語の基礎を復習しながら、さらに新しいものを積み上げ、中国語の運用に必要な知識を一通りすべて学びます。中国語の文法は、英語のように多くはありませんが、それを運用できるかどうかが問題です。中国語学習者にありがちなタイプとして、発音を軽視し、リスニングはまったくお手上げという人がいます。「聞く、話す、書く、読む」すべてにおいて、中級レベルに達しなければ意味がありません。自分に足りない部分を知り、弱いところは、初心に戻って学び直す気持ちが必要です。

到達目標

基本的な中国語の読み書きができるようになる
中国語で日常のやりとりができるようになる

中国語検定試験のレベルを目安とすると、4級-3級レベルの中国語を学習します。検定4級-3級にチャレンジできる力をつけます

提出課題

授業でやり残したドリル

課題（レポートや小テスト等）に対するフィードバックの方法

中間試験は返却した上で講評します。

評価の基準

次の点を総合的に判断します
平常点（出席状況、受講態度） 20％
中間試験と期末試験 80％

履修にあたっての注意・助言他

ややレベルの高い中国語クラスです。対象学生は「ブラッシュアップ中国語」を終えた人、GSP（グローバル・スタディーズ・プログラム）生などを想定しています。初心者向けの授業ではありません。留学生の人は、日本語で中国語を学ぶことになることを理解した上、履修して下さい。日本語への翻訳練習も多くなります。

教科書

.教材はプリントを配布します。					

参考図書

.必要に応じて案内します。					

その他

授業計画

1. 授業案内、ウォーミングアップ
予備：これまで使用した中国語テキストなどを見直しておく（2時間）/復習：教材プリントの中で知らない文法や単語を自習する（2時間）
2. 第1課 中国に行こう
予備：教材プリントに目を通す。会話文の音声を聞き、音読する（2時間）/復習：会話文の音読、残りのドリル（2時間）
3. 第2課 ワロン茶を飲もう
予備：教材プリントに目を通す。会話文の音声を聞き、音読する（2時間）/復習：会話文の音読、残りのドリル（2時間）
4. 第3課 友達をつくろう
予備：教材プリントに目を通す。会話文の音声を聞き、音読する（2時間）/復習：会話文の音読、残りのドリル（2時間）
5. 第4課 長城に登ろう
予備：教材プリントに目を通す。会話文の音声を聞き、音読する（2時間）/復習：会話文の音読、残りのドリル（2時間）
6. 第5課 漢字を覚えよう
予備：教材プリントに目を通す。会話文の音声を聞き、音読する（2時間）/復習：会話文の音読、残りのドリル（2時間）
7. 第6課 街を歩こう
予備：教材プリントに目を通す。会話文の音声を聞き、音読する（2時間）/復習：会話文の音読、残りのドリル（2時間）
8. 中間試験
予備：試験準備（4時間）
9. 第7課 中国映画を見よう
予備：教材プリントに目を通す。会話文の音声を聞き、音読する（2時間）/復習：会話文の音読、残りのドリル（2時間）
10. 第8課 シルクを買おう
予備：教材プリントに目を通す。会話文の音声を聞き、音読する（2時間）/復習：会話文の音読、残りのドリル（2時間）
11. 第9課 中華を食べよう
予備：教材プリントに目を通す。会話文の音声を聞き、音読する（2時間）/復習：会話文の音読、残りのドリル（2時間）
12. 第10課 大検券を買おう
予備：教材プリントに目を通す。会話文の音声を聞き、音読する（2時間）/復習：会話文の音読、残りのドリル（2時間）
13. 第11課 水浴缶を楽しもう
予備：教材プリントに目を通す。会話文の音声を聞き、音読する（2時間）/復習：会話文の音読、残りのドリル（2時間）
14. 第12課 春節を過ごそう
予備：教材プリントに目を通す。会話文の音声を聞き、音読する（2時間）/復習：会話文の音読、残りのドリル（2時間）
15. 総復習、期末試験準備
予備：中間試験以降学んだ課の復習（2時間）/復習：試験準備（2時間）

教材はプリントを配布しますが、「中国語さらなる一歩」（白水社）を予定しています。

授業形態（アクティブ・ラーニング）

<input type="radio"/> ア：PBL（課題解決型学習）	イ：反転授業（知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態）
<input type="radio"/> ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
<input type="radio"/> オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
<input type="checkbox"/> キ：その他（A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合）	

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

外国語を用いて「人と円滑なコミュニケーションをとることができる」資質・能力を育み、商学部生に求められる「各業界の動向や問題点を理解するための基礎知識」、経済学部生に求められる「人間、社会に関するこれまでの学問的成業の基礎」、人間社会学部生に求められる「日常生活と文化といった現実社会の様々なテーマ」に習熟し「コミュニケーション能力」の育成を目指します。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

備考